

Poco ZEFIRO

カトリック桂教会 広報紙



Vol.16
2021年クリスマス号

編集・発行
カトリック
桂教会広報部



主の御降誕おめでとぅございます！

担当司祭 アントニオ・カマチョ



約2年前に新型コロナウイルスが流行し始め、その後、いろいろな事がありました。特にミサができなくなったことは、寂しかったですし、信徒の皆さんが気の毒でした。私もつらかったです。

そんなパンデミックにもかかわらず、私たちは共同体であることを示さなければなりません。共に祈り、共にミサに参加し、共に司牧活動をしています。そのためには、イエス様の恵みと力が必要です。これからは、パンデミックと一緒に生きるのではなく、イエス様と一緒に生きるのです。

イエス様の誕生は、イエス様が私たちの救い主であることを示しています。私たちは一人ではありません。だから恐れてはいけません。

イエス様が私たちのために誕生されたことは、大きな喜びです。昨年は多数の信者がクリスマスミサに与ることが出来なかったのですが、今年はより多くの皆様が与れるように神様に祈っています。

特に今年はシノドス（世界代表司教会議）に向けた「歩み」として、教皇フランシスコは開幕式を行いました。開催テーマは「ともに歩む教会のため・・・交わり、参加、そして宣教」です。「シノドス（ともに歩む）」ということばの通り、全世界が旅をしながら交わりを生き、参加を実現し、宣教する神の民として、新たな道を切り開くことができますように。

私たちも博士たちのように、その星を見て喜びにあふれた（マタイ 2, 10）。その喜びで皆様と共に交わって、そして参加して、全世界に宣教します。

これからは、信者である私たちが、イエスの誕生の喜びを伝えるために、社会の中で生活をもって宣教する教会になることが求められています。一緒に歩みましょう。メリークリスマス！

桂教会へのメッセージ

神の恵み

ホルヘ司祭



司祭になることは私の人生で最高の経験の一つでした。自分の歴史を振り返ると、人生のあらゆる瞬間に、気づかなか



かったとしても、神はいつも私と共におられます。疑いもなく、私たちが気づいていないときでさえ、神は私たちのそばでいつも私たちと一緒に歩いておられます。

実際、マタイによる福音書の終わりに、イエスはいつも私たちと一緒にいると約束されました。

「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」
マタイ 28, 20

確かに、家族でも職場でも、現在のパンデミックや病気などで日々直面している問題の中で、このイエスの約束を忘れがちです。ですから、私たち一人一人が自分の歴史を見ることが重要です。そうすれば、神がいつも私たちと一緒に、喜びの瞬間、特に私たちの人生で最も困難な瞬間に歩んできたことがわかります。

私たちはもう一年を終えようとしています。キリスト教信者として自分自身を振り返る良い機会です。間違いなく、神はいつも私たちと一緒におられました。私たちは本当に神と一緒にいましたか？特に今年、私たちは神が私たちに期待しておられるように行動しましたか？

神はいつも私たちに多くの恵みを与えてくださいます。神は最近私に司祭叙階の恵みをくださいました。皆一人一人が自分の人生を振り返り、神がいつも皆に与えてくださったすべての恵みを見ることができると思います。

間もなくクリスマスを祝うので、イエス様が馬小屋で生まれるだけでなく、私たちの家や家族、そして特に私たちの心の中で生まれることを神に祈りましょう。今年のクリスマス、そしてこれから始まる新年が、私たちの精神を新たにし、神と共に歩み続ける時でありますように。